



"TO ACKNOWLEDGE THE DUTY THAT ACCOMPANIES EVERY RIGHT"

# The service club of the YMCA THE Y'S MEN'S CLUB OF NISHINOMIYA



AFFILIATED WITH THE INTERNATIONAL ASSOCIATION OF Y'S MEN'S CLUB - CHARTERED MAY 17TH, 1948

## 主 題 (2010~2011)

- 国際協会会長 『Once More We Stand.「心新に立ち上がろう」』  
藤井 寛敏 (東日本区 東京江東クラブ)  
スローガン 『Build a Bridge to the Future』  
「明日《あす》への橋を架けよう」

- アリア地域会長 『Once More We Stand.「心新に立ち上がろう」』  
高田 一彦 (東日本区 横浜クラブ)

- 西日本区理事 『飛翔たとう ワイズスピリットを胸に』  
「Forward with Y's men's spirit in our hearts」  
仁科 保雄 (京都キャピタル)

副 題 『Let's meet challenge with calmness』 「泰然自若の精神で」

- 六甲部 部長 『Show Y's care, Sow the seed of Y's』  
安行 英文 (さんだクラブ) 「ワイズの心を、ワイズの種をまこう」

- 西宮クラブ 会長 馬場 一郎 『交わりを大切に、クラブライフをエンジョイしよう』  
「Let's enjoy our club life through friendship!」

2011年4月

755号

64期10号

since 1948.5.17

スポンサークラブ  
大阪クラブ  
DBC 締結  
近江八幡クラブ  
広島クラブ

## クラブ主役員

- 会 長 馬場 一郎
- 直前会長 浅野 純一
- 副 会 長 瀧崎 進一
- 副 会 長 清水 彬久
- 書 記 廣瀬 一雄
- 書 記 阪根 新
- 会 計 岩田 健司
- 会 計 足立 康幸
- 監 事 藤原 百合子
- 担当主事 三島 浩司
- 六甲部監事 山口 政紀
- 部広報主査 浅野 純一
- 区次期交流 廣瀬 一雄

2011年4月 西日本区強調ポイント "YMCA サービス ASF" YMCAの歴史に学び、使命を理解して、サポート体制を強化しよう。 亀浦 正行 Yサ・ユース事業主任 (熊本にしクラブ)

### 2011年4月第1例会のご案内

(西宮 YMCA, 同保育園 職員歓送迎会)

日時: 2011年4月15日(金) 午後7時~

場所: SEASON 西宮店 TEL 0798-26-4527

西宮市六湛寺町 9-25 (県立西宮病院北側)

ドライバー: 阪根 新メン、堤 一幸メン

- 開会点鐘 馬場会長
  - ワイズソング 一同
  - 聖句朗読
  - ゲスト紹介 馬場会長
  - 食前感謝
  - 会食 一同
  - ゲストスピーチ 山本リーダー・永井道子さん  
「タイワークキャンプ報告」神戸 Y 国際事業について
  - お誕生日のお祝い
  - Y's ニュース・お知らせ 馬場会長
  - YMCA 報告 三島主事
  - 閉会点鐘 馬場会長
- 会費: ¥4,000.- (メン・ネット共)

## 今月の聖句

『あなたを知る人の上に 慈しみが常にありますように。心のまっすぐな人の上に 恵みの御業が常にありますように』

詩編 36 編 11 節

清水彬久メン 選

3月 例会出席状況	在籍会員数	22名
第1例会(3.18金)	第2例会(3.4金)	
メン 20名	メン	12名
ネット・コメット 1名	メネット	0名
ゲスト・ビジター 1名	ゲスト・ビジター	0名
合計 22名 make-up 0名	合計	12名
出席率 90.9%		

ファンド・BFの累計	3月	累計
ニコニコ ファンド	3,000 p	33,602p
Brotherhood Fund	5,700 p	30,000p
使用済切手	620 g	860 g

## Happy Birthday To You

お誕生日おめでとうございます

- 4/10 瀧 浩一メン
- 4/22 三島浩司メン
- 4/12 丸山悦治メン
- 4/24 足立完子ネット

## 会長メッセージ

馬場 一郎 会長

3月11日の東北地方太平洋沖地震とその津波により、東北地方、関東に甚大な被害が出ています。亡くなられた方々に慎んでお悔やみを申し上げますとともに、被災された地域の方々に心よりお見舞いを申し上げます。被災された方々が安全を確保し、これ以上被害が広がらないことを祈るばかりです。

連日の報道を見るにつけ、16年前の気持ちがよみがえります。あの時、多くの人に支えられ、助けてもらったように私たちに今できることをやっていきたいと思えます。特に今回の震災は長い、長い支援が必要だと思えます。そのことを覚えて、西宮クラブとしてYMCAと共に、息の長い取り組みが出来たらと思えます。

「どんな幸福な生活にも数多く起こる試練や心労を、耐えがたい重荷だと考えるか、それとも自分の生活原則を実行し、修練するために、神から授けられた機会だと見るかは、ものごとの感じ方として大きな相違である。・・・この後の見方は、もちろん信仰があって初めて出来ることであり、またそれが信仰の最も明らかな利益の一つである。十字架は重いが、ふしぎなことにおまえがそれを担うやいなや、それがおまえを担ってくれる。初めは闇夜だが、行く手は真昼の明るさ。」  
(ヒルティ著「眠られぬ夜のために 第1部」)

このたびの大震災に関して、日本福音ルーテル教会より出された書簡に、上の文章が掲載されていました。震災の耐えがたい重荷を、神様から授けられた機会と見ることなど、できるのでしょうか。とてもできるとは思えない私にも、『十字架は重いが、ふしぎなことにお前がそれを担うやいなや、それがおまえを担ってくれる。』の言葉が迫ってきます。

私たちの考えを越えて、神様は被災地のみなさんと共にいて、支えてくださることを信じて、想いを馳せたいと思えます。

## 3月例会報告

ドライバー 浅野純一

ゲストスピーカーは国際ボランティア活動を行っている大町佳代さんです。大町さんは聖和大学短期学部幼児教育学科を卒業し、その後関西学院大学社会学部に編入、社会福祉学を専攻されました。大町さんは私が高等学校教員で兵庫県立西宮今津高校に勤務していたときの生徒の方です。

彼女が国際ボランティア活動に取り組む動機となったのは、中学校在学中に起きた阪神大震災で被災したことでした。関西学院大学在学中にボランティア活動に取り組み始めて、最初にカンボジアで2年間活動されました。次いで大学卒業後にアフリカ南東部のモザンビークでNGO及びJICAの派遣で3年間活動をされました。今回のスピーチはモザンビークでの活動についてです。



映像でもってモザンビークの活動を紹介される大町佳代さん

モザンビークでの活動の中心はエイズ予防の啓蒙活動です。アフリカの南東部一帯はエイズ患者が最も多いところです。モザンビ

ークは人口の3分の1以上がエイズ患者です。先頃の東北・関東地方を襲った大震災の被害が映し出されていますが、被災された状況がモザンビークでの日常生活です。泥でつくられた壁の家（家造りの手伝いも活動の一つです）、貧しい食料、劣悪な衛生状態。まず、モザンビークに入って、さっそく宿泊先の家で強盗に襲われました。ブラジル人のボランティアとともに当地としてはりっぱな家に住んだのですが、豊かな境遇にある人と思われたのでしょうか、体が凍り付くような体験をしました。

さて、エイズの予防を広めていく活動ですが、日本であれば、学校の教室か公民館に集めて、文書資料を配付して病気の恐ろしさを講義形式で伝えることを考えます。しかし、十分な学校教育を受ける機会がなく、文字も浸透していない現地の人々には、そのような方法で伝えていくのは不可能です。ある時、ダンスと寸劇によって、エイズ予防の啓蒙活動を巡回して行っているグループに出会いましたが、太鼓のリズムにのって踊るダンスに大きな衝撃を受けました。そして、東アフリカの伝統的な音楽を調べ、ダンスによるエイズ予防のための活動を奥地までもっと広めていこうと、現地の若者を集めてダンスグループを結成しました。ダンスはお祭りを盛り上げるだけではなく、啓蒙活動に結びつけていこうと考えました。

このダンスグループでの活動で多くのことに多くを学びました。アフリカの太鼓の音は魂の叫びであり、人の心や体を現すもので、太鼓の音でダンスをすることは生きていることを体全体で表現することです。本当に音楽を通してアフリカの人々はわれわれ日本人が思うところの貧しさとは別の次元で生きる喜びを感じているのです。

私は以上の報告を聞いて、日本とはまった

く異なる価値観や感覚で生きているアフリカを知らされました。モザンビークでは平均寿命が36才程度、アジアではNIEs（新興経済地域）があるのに、アフリカにはNIEsがない。アフリカの貧困については従来から大きな関心を持っていたのですが、私が考える別の価値観でアフリカの人々は生き生きと生活していることを知らされました。そして、大町さんが立ち上げたダンスグループには年齢も生活環境も異なる25名の若者が集まっているのですが、喜びをもって、誰かのため、国のために活動しているとの話しに大変感銘を受けました。そして、大切なことは継続して啓蒙活動が続けられることです。大町さんが帰国後も活動が続くことを配慮していることに感心しました。

なお、日本から善意で蚊帳が贈られるが、その利用法が十分にわからず換金されてしまうとの話がありました。以前、新聞で発電機が送られるが放置されているとの記事もみましたが、援助の活動では単に物を送るだけでは不十分であることを認識させられました。

なお、余分なことを記しますが、日本のエイズ患者数は世界的にはきわめて少ないのですが、先進国では唯一患者数が増加しているのです。なぜでしょうか？

そのことを忘れてはなりません。

## 西日本区だより9

2011～12 交流事業主任 廣瀬 一雄メン  
3月12日（土）～13日（日）に開催されました「10-11年度次期会長・主査研修会」での交流事業主任発表です。

次期交流事業主任を拝命致しました六甲部西宮クラブの廣瀬一雄でございます。どうぞよろしくお願いいたします。本日この記念す

べき日に事業主任方針をご出席の次期クラブ  
会長、各部 主査の皆様にご発表できることを  
喜んでおります。

お話しに先立ちまして先日のクライストチ  
ャーチ 昨日の東北 宮城での地震で被害に  
あわれた皆様にお見舞いもうしあげます。さ  
て、この記念すべきと申しあげましたが多分  
多くの皆様、察しがつかれておられるかも知  
れませんが、九州新幹線が全線開通し、本日  
ここ新大阪から熊本そして鹿児島へと“さく  
ら”で乗り換えなしで行くことができるよう  
になったことでございます。そしてもう一つ、  
ここ近畿の水がめ ともいうべき 琵琶湖で  
の びわこびらき の日だからでございます。  
そしてこのびわこ部から次期理事キャビネッ  
トの皆さんが 輩出されておられます。

ご承知のとおり 次期理事、書記、事務局  
長など その多くのメンが近江八幡クラブの  
ワイズメンでございます。



次期交流主任の方針発表される廣瀬一雄ワイズ

そしてここに、なぜわたくしが 今この演  
台に立たせていただいているのか との関係  
があるからです。先ほどからの主任発表のト  
ップバッター、藤川メンは広島クラブのワイ  
ズメンでございますが、西宮クラブはこの近  
江八幡クラブ、広島クラブとトライアングル  
D B Cを締結をしております。

その繋がり、ご縁から 西宮クラブから  
わたくしが幸運?にも 主任に選出された訳

ですから・・・

実は本当は なかなか なり手がいなかっ  
たからなのですが・・・ その証人にこの研  
修会に参加の次期六甲部 交流主査で西宮ク  
ラブの馬場会長、そして今回初参加の西宮ク  
ラブの濱崎 次期会長がおられます。

でもわたくしはこれを3つのCとしていこ  
うと思っています。ではその3つのCとは、  
と皆様は思われるでしょう。

そのいちチャンス。いい機会としてとら  
えます。

つぎにチャレンジ。このお役に挑戦です。

そしてチェンジ。変革を

この度、わたくしは事業主題を 一期一会  
で楽しい交流 とさせていただきます。

この一期一会の意味は皆さんもよく御承知  
でしょうが

いつも会っている人でも、今の出会いは一  
度限りのもの、だから、もしかしたら、もう  
二度と出会えないかもしれないというぐら  
いの覚悟で、大切にその人に接しなさい、と  
のことです。

先月の今日、2月12日土曜日ですが神戸  
Y M C Aで交流事業委員会が開催されました。

西日本区にはいくつかの事業委員会があり  
ますがこの委員会には 直前 交流事業主任  
の谷本ワイズ、今期の平野ワイズと次期のわ  
たくし、広瀬が仁科理事からの委嘱を受けて  
おります。

御存知のとおり 東広島クラブの谷本ワイズ  
は次期西中国部長で国際議員も務められ、名  
古屋クラブの平野ワイズは次次期西日本区書  
記を務められます。

さてその当日の議題は当然のことですがY  
E E P , S T E P , I B G , D B Cのことで  
したが交流事業の継続、伝承に係ることが多  
く、次期交流事業への課題・要望をお二方  
から力づよく述べられ、本日のこの研修会に向

けての主任のありようなど、ご助言をいただきました。

西宮クラブの3月ブリテンにも 西日本区だより として 書かせていただきましたが 当日 オブザーバーとして 次期LD委員長として活躍される六甲部、神戸学園都市クラブの 藤井さんが同席され 我々3名はラッキーにもゴディバのチョコレートを頂く羽目となりました。そのお返しに北海道ヘロイズのクッキーと 夜の交流アワーのために本格蕎麦焼酎を買い出しにいき今日持参いたしました。

そろそろわたくしのもち時間がまいったようです。

事業方針、事業計画についてはお手元の冊子をご覧くださいとともに あすの事業主任・主査の連携のアワーでおはなしをすすめてさせていただきますたく存じます。

あしたの交流事業について一緒に語りあいましょう。

神戸YMCA創立125周年記念事業を成功させよう

## 125年を振り返って

(その9)

125周年記念事業実行委員長



長井 慎吾メン

125周年に際し活動の原点を振り返るため、

神戸YMCA 125年の先達の偉業をレビューしています。

今回は、高度経済成長下の神戸YMCAです。戦後の復興が落ち着きを見せ始めた1960年代に入り、YMCAの本質を見直す議論が盛んに行われました。世界YMCA同盟総主事、世界運動家としてYMCAに力を注いでいたポール・リンバート氏は、「こういう

新しい時代に、YMCAはいったいどういう考えで、どういう問題を提起しながら運動を進めるのか」と問いかけました。これは、ポール・リンバート書簡と称され次の4項目でした。目的、使命、方針と機構の改革、

プログラムの革新、世界的運動としての進展。当時の神戸YMCAは、この問いを真剣に受け止め、奈良常五郎総主事のリーダーシップの下、リーダーグループでは定例会で取り上げ、自分達を分析する機会としました。長田分館のレイリーダー・グループは、合宿を行い夜を徹して語り合うなどし、この問いに対する研究会が多彩に開催されました。

神戸YMCA全体の活動内容を問い、激変する社会の中であって、YMCAがこれからあるべき姿を求めるものでした。時の理事長早川亮は、会員に対して語り合う機会を設けることに決め、「会員協議会」を開催し発題を行いました。神戸YMCAは青少年問題解決の第一線に活動しているか。

民主主義の不毛を開拓しているか。地域社会への奉仕を徹底できているか。そして、1961年1月に130名が集まり会員協議会が開催されました。テーマは、「私たちはこれでよいのか」「神戸YMCAにかく希望する」でした。

これは、リンバート書簡に答えようとするものでありましたが、現代社会の急激な変転に処して、新しいYMCAの道を開いていこうとする当時のレイパーソン達の堅い決意と熱意とを表したものであったと総括されました。YMCA運動における新しき発展の道は、一人のすぐれたリーダーの打ち振る旗の下に示されるというよりは、多くの同信の友の協力と、心を一つにした祈りの中から見出されるべきであろう。こうした活動は、委員会の整備を試み、運動を裏付けるものとして位置づけられました。現在もYYフォーラムや会員

総会など、会員とスタッフがともに考える機会が設けられ、今回の125周年記念事業は、大きな節目としての過去、現在の分析と未来へ向けた会員主導の話し合いの場であると受け止めています。

## 西宮Yファミリースマイルプログラム報告

浅野 純一メン

3月21日の春分の祝日、春のファミリープログラムを行いました。おなじみのファミリースマイルシリーズ、今回は「ファミリースマイルハイキング」と題して、甲山に登ったり、甲山森林公園でネイチャーゲームやドッチボールなどで遊ぶ計画でした。ところが、当日は肌寒い雨模様の天気です。YMCAのなかでのプログラムに変更しました。プログラムは春分・秋分の年に2回行っていますが、よく雨に降られます。実施する日は再検討の必要があるのかも。準備のスタッフ、リーダー（12名の参加）は2倍の苦勞です。



開会挨拶をされる浅野委員長 西宮Y保育園ホールにて

さて、朝10時30分に保育園の3階ホールに集まり、家族紹介から始めました。11家族31名の参加者がありました。家族紹介は川柳で行いました。「うるさいな……と

……のけんか」（メモを取り忘れて正確ではありませんが）これは兄弟げんかのことですが、そのように家族の様子をユーモアに表現してくれました。メインの行事は「白玉作り」、6グループに分かれ、それぞれのグループで色をつけた白玉作りです。グループで指定された色を何によってつけるのかを話し合い、材料を買いに夙川駅前のダイエーに出かけました。赤の白玉（赤玉）はいちご、黄色はカレー、オレンジは……、緑は、……なかなか楽しい白玉ができました。結構時間がかかり、できたものはおいしかったです。サポートクラブOBのメンバーも7名が参加して、おいしい豚汁をたくさん作ってくれました。余るくらいで私は3回おかわりをしました。お弁当に白玉と豚汁の昼食後は「焼き板」です。焦げすぎと思った焼き板もタワシでみがけばなかなかのでき、良い表札ができました。

プログラムの後、阪急夙川駅前、東日本の大震災の義援金の募金活動を行いました。



黄色い声を張上げて「ぼきん よろしくおねがいします」

多くの子どもたちも募金活動に参加してくれました。今回はいつものプログラムとは異なり、保育園の子どもたちが多かったのですが、小さな子どもたちが大活躍でした。午後3時30分頃から5時まで行いました。子どもたちは4時30分には終わってもらいましたが、なかには最後まで声をからして募金をよびかけてくれたボクもいました。多くの

団体が募金活動を行い、活動に不安がありました。現に4時まではボーイスカウトと競合しましたが、多くの方の温かい心によって約10万円の募金を頂きました。被災地の方に少しでも役に立てたら幸いです。

なお、ワイズメンズクラブからはプログラムに私の他、廣瀬、山本、長井、小野、三島の各メンが参加されました。また、募金活動に馬場一郎、馬場貴英、山口政紀、足立、岩田の各メンが、山口洋子メネットが加わって頂きました。皆さんご苦労様でした。

## 六甲部 第2回評議会開催

山本常雄メン

去る3月20日(日)神戸YMCAチャペルに於きまして六甲部の第2回評議会が開催され、六甲部キャビネット・各事業主査並びに各クラブ会長の活動中間報告がなされました。

当日生憎安行部長はお仕事が入りまして開会直前に退席されましたので、司会役の松本文男六甲部書記は、部長代行で点鐘や六甲部の活動全体報告、研修会の解説等ひとり3役4役の大奮闘でした。



次期事業主査を紹介される森次期六甲部長

評議会の後、会場を4Fサイコー亭に移し、研修会と懇親会を開催し親交を深めました。参加者は全体で37名、西宮から8名でした。

## 芦屋クラブ3月第一例会

勅

小野 紘メン

今月3月16日(水)の芦屋クラブの第一例会は会場を一変して賀川記念館で持たれました。会場のホテル竹園芦屋がプロ野球のオープン戦のために使えなくなったとの事。いつもはリッチなホテルでの会食はこの日はお弁当に切変えて皆さん少し勝ってが違うのか緊張気味。桑野会長の開会点鐘の後、賀川督明館長の丁寧な資料での賀川豊彦の足跡についてお話がありました。偉大な賀川先生の足跡を40分で語るのは大変だったと思われるが、皆さんに分かりやすい逸話を込めてのお話は賀川先生の人となりを伺える暖かい一面でした。西宮からは馬場会長と私が出席しました。



映像を交えて説明される賀川督明館長

## リーダー会だより

西宮・宝塚YMCAリーダー会 あたち なつみ 足立 夏海さん

こんにちは。いつもリーダー会を暖かく応援してくださり、ありがとうございます。今年度も3月26日から29日まで、春のスキーキャンプがありました。今年は東北大地震の関係もあり、信州の志賀高原、妙高ではなく、兵庫県の八手北高原スキー場で3泊4日のキャンプをしてきました。3月中旬に

変更が決定され、前例のない場所でのキャンプに私たちリーダー一同、不安も少しありましたが、他ランチのリーダーとミーティングを重ね、キャンプに来るメンバーのことを考えながら準備を進めました。そして、キャンプ本番。80人の子ども達が参加し、スキーを楽しんだり、お友だちと雪遊びを楽しんだりして、大きな怪我や病気もなく、ひとりひとりにとってとても充実した4日間を過ごすことができました。一年間、私たちが楽しく、いろいろなプログラムを行うことができたのはワイズの皆さんの暖かいご支援をさせていただいたおかげです。本当にありがとうございました。4月からまた新しい年度になり、野外活動やキャンプなど、たくさんのプログラムがスタートします。来年度も西宮・宝塚YMCAリーダー会をよろしく願います。



西宮YMCA 三島浩司メン

4月1日、西宮YMCA保育園では入園・進級式を行いました。55名の在園児がそれぞれに一つ上のクラスに進級し、14名の園児が新たに入園してきました。子ども達も保護者の方々もそれぞれに不安と期待をもって新しい年度を迎えたことだと思います。また、西宮YMCAでも野外活動やサッカー、バスケットボール、アトリエ、サポートプログラムに新しいメンバーや講師、リーダーを迎えての新しいスタートです。それぞれの不安を少しでも和らげ、期待にこたえていくことが出来るようにとの思いを新たにしています。3月には、東日本で大きな地震と津波により、16年前の阪神淡路大震災のとき以上に多くの方々が被災されました。16年前に被災し、多くの方々にお支えいただいたものとして、また、4月1日公益財団法人の認定を受けた

ものとして、神戸YMCAが被災した人々への支援をさせていただくことは大切な使命であると思います。3月のファミリープログラムの後には、参加された親子、リーダー、ワイズメンが力を併せて街頭募金を行いました。99,900円という浄財と共に、多くの「心」を合わせることが出来たことに感謝したいと思います。

「希望をもって喜び、苦難を耐え忍び、たゆまず祈りなさい。」(ローマの信徒への手紙12章12節)神戸YMCA2011年度年間聖句のこの言葉を胸に刻み、これからもYMCAに集ってくださる多くの方々と共に、被災された方々をはじめ、様々な助けを必要とする人々に寄り添い、共に希望ある未来に向けた歩みが出来るように祈りたいと思います。

#### 今後の予定

##### 1) イースター早天礼拝

共にイエス様の復活をお祝いしたいと思います。是非ご参加ください。

日時： 4月24日(日)7:00~8:00

場所：神戸東遊園地(神戸市役所南側)

\*雨天時は神戸YMCA

説教：塚本潤一牧師(頌栄短期大学宗教主事)

テーマ：「わたしは主を見ました」

##### 2) 神戸YMCA創立125周年記念式典

日時： 5月8日(木)14:00~17:00

場所：神戸YMCA大体育館

##### 3) 神戸YMCA125周年記念ハンドベルコンサート

神戸YMCAに属する3つのグループ競演のコンサートです。「天使の歌声」とも呼ばれるハンドベルの美しい音色を是非お楽しみ下さい。

日時： 5月14日(土)15:30~会場  
16:00~開演

場所：日本基督教団神戸栄光教会

(西神戸市中央区下山手4丁目1)

入場料：1,500円(中学生以上)

YMCAにて事前に入場券をお求め下さい。

##### 4) 神戸キリスト教青年会定期総会

日時： 5月31日(火)18:30~20:30

場所：神戸YMCAチャペル

## 西宮YMCA保育園だより

三島浩司メン(保育園園長)  
(西宮YMCA保育園だより3月号より)

### 3月の主題:大きくなった

50cm、3.2kg。112cm、19kg。個人差はありますが、この数字は0歳児と6歳児の平均身長と体重です。生まれたばかりの赤ちゃんが、小学校に入学する頃には身長は倍以上、体重は6倍余りにも増えているのです。私たちは、よく子ども達に「大きくなったね!」と声をかけますが、改めて数字にしてみると、本当に驚く速さで「大きく」なっています。

一方で、この目に見えて大きくなった体の中にある「心」の成長は中々数字に表すことが出来ません。そのためか、大きくなった「心」を感じることは非常に難しいことのように感じます。けれども、間違いなく、怒りや不安などの感情を「噛み付く」「引っ掻く」「叩く」「泣く」「わめく」などといった方法でダイレクトに周りにぶつけていた「心」が、このような気持ちを言葉で表現すると同時に、感情そのものをコントロールすることが出来る「心」に大きく成長しています。

この大きくなったことに気づきにくい「心」の成長を感じ取ることが出来る高感度のアンテナを是非持ちたいものです。

進級、卒園のこの時期は、普段は気づきにくい子ども達の「心」の成長が非常に感じやすくなる時期でもあります。更に高感度なアンテナを準備し、子ども達の「心」の成長を共に感じ、共に喜びたいと思います。

今月の聖句が書かれている旧約聖書の「出エジプト記」には、三千年以上の昔、エジプトのファラオ王の奴隷となっていたイスラエルの人々をモーセが救い出したお話が書かれています。今月の聖句の前には「わたしの契約を守るならば・・・」と書かれています。この契約とは全てを愛する神様に仕え、人に仕えて生きることを表しています。また、後ろには「聖なる国民となる」と書かれています。この聖とは罪を清められたもの、区別されたものを意味し、神様に用いられる人として生きることを表しています。

YMCA保育園で神様に会い、交わった子ども達が、神様から愛されている「宝」として、また、区別された「聖なる国民」として、多くの人々を愛し、仕える歩みを続けていけるように心から祈り続けたいと思います。

**3月聖句:あなたたちはわたしの宝。**

(出エジプト記19章5節)

## 音を重ねる日々は心を重ねる日々に46



楽団あぶあぶあ&ミュージカルチーム

LOVE 代表ひがしの ようこさん

音を重ねる日々は心を重ねる日々に

- 47 今月もお休み

演 浩一メン

## ワイズニュース 馬場 一郎 会長

### 1. 西日本区第1回準備役員会

日時:4月9日(土)13:00

~10日(日)12:00

場所:ホテルクライトン新大阪

登録費:17,000円

### 2. 六甲部準備役員会

日時:5月21日(土)

14:00~17:00

場所:神戸YMCA

次期会長、主査活動計画(案)発表

### 3. 第14回西日本区大会は開催されます。

日時:6月11日(土)~12日(日)

場所:ウエスティン都ホテル京都・  
京都国際交流会館

## 水の流れるまはに40

(俳句)

山野 直行(小野勅紘)

### やれ泣くな わかった我も 猫の恋

(猫の恋と言うと聞こえはいいが猫の発情期のことで、俳句の季語になっているが実際は実に喧しい。そんな悩ましい猫撫声を聞いていると、私まで悩ましくなってくる。わかったわかったよ、あんただけじゃなく私だって・・・と言いたくなるけど。これはオス猫の気持ちであって、その当事者のメス猫といたら、実に淡泊で、より強いオスを求めるらしい。では人間はどうか? 犬の恋はどうも季語にはなり得ないようだ。)

### 啼き疲れ 水性(みずしょう) 空し 猫の恋

(水性:浮気的な女性の移り気のこと。オス猫がラブコールを送る割には、メス猫がオスを値踏みして主導権は完全にメスにあるのは人間も同じらしい。そんな浮気的なメスを求めて啼き疲れて自慢の声もかすれ気味、疲れて暫く休んではまた啼くオス猫の健気さや成就するの? 最近のサイエンス誌によれば動物世界ではより優秀なDNAを求める意味で、

浮気性は自然の摂理とか。鴛鴦だってメスの抱卵中、オスはせっせと…  
 だって。イメージ狂うね。)

・ 季変わりの 人事異動や 春愁(うれ)ひ

(企業や団体では気変わりは4月にやってくる。そう、あの悩ましい人事異動である。サラリーマンは気楽な稼業とはいえ、命じられれば即座に任地や役職に赴かねばならない。家族もそれに影響されるし、一層春の愁いを伴う。赴任して「ふー」と一息ため息をつく哀愁が漂ってきそうだ。)

(近2ヶ月の予定表)

小野メン力作

《今後の予定》	
《該当ドライバーの予定表》	
日	行事
1	※ 第一例会(会場)19:00西宮
2	※ 50年経年委員会
3	※ 西日本区第3期委員会、次期開催
4	※ 総会 朝のムラサキ会館新大館
5	※ 神戸クラブ第一例会(神戸YMCA)
6	※ 家庭クラブ第一例会(三田YMCA)
7	※ 家庭クラブ第一例会(神戸YMCA)
8	※ 第一例会(会場)19:00西宮
9	※ 神戸クラブ第一例会(神戸YMCA)
10	※ 家庭クラブ第一例会(三田YMCA)
11	※ 家庭クラブ第一例会(神戸YMCA)
12	※ 第一例会(会場)19:00西宮
13	※ 神戸クラブ第一例会(神戸YMCA)
14	※ 家庭クラブ第一例会(三田YMCA)
15	※ 家庭クラブ第一例会(神戸YMCA)
16	※ 50年経年委員会
17	※ イースター早笑礼拝 神戸聖堂礼拝
18	※ 50年経年委員会

メーカーキャップ等にご活用下さい

みなさま 大町さんから、すてきなメールが届きました。 馬場

馬場 様  
 こんにちは。  
 先日は、素敵な会にお招き下さり、プレゼンテーションをさせていただき、本当にありがとうございました。  
 会のメンバーの皆様も本当に素敵な方ばかりで、真剣にお話を聴いて下さり、耳を傾けて聴いて下さる皆様一人一人の顔がとても印象的でした。  
 話をしながら、大好きなアフリカの空気が胸いっぱいによみがえってきて、何度も涙が溢れそうになりました。  
 暑い熱い国。  
 大好きな国。  
 辛いことも、悲しかったことも、少しの喜びでとびっきり幸せな気持ちになれたのは、活動期間中、たくさんの人たちからの笑顔と支えがあったからだと思います。  
 日本ではないどこかの国で起こっていること。  
 遠い遠いアフリカの現実。  
 そんな風にまとめ、日常の生活に追われて過ごしている日本人の方々が多いい中で、皆様のようにイニシアティブをもっていろんな活動をされていることに大変刺激を受けました。

一人ではできないことでも、みんなの一人一人の持ち味を合わせると、予想外のアイデアが集まり、たくさんの方ができるようになります

皆様の活動は、まさにその鏡といっではないのでしょうか？浅野先生から、この連休に、阪急夙川駅前・西宮北口にて東日本大震災の為の復興の募金活動をボーイスカウトのみなさんとの競合にて行ったと伺いました。

皆様の熱いモチベーションを感じ、自分自身が日本人であることを改めて誇りに思っています。

モザンビークで活動したこと。日本に生まれたこと。戦争のない日本にうまれたこと。

この3つの偶然を自分のところにいつもとめながらこれからも生きていきたいと思ひます。

少しの時間でしたが、ガストにも御一緒させていただけて、とても素敵な時間を過ごすことができました。時間があつというまに過ぎて、もっとたくさんお話したかったくらいです！！

少しずつ春めいてきていますが、季節の変わり目ですのでどうぞお体の方ご自愛下さい。

皆様にもどうぞ宜しくお伝えください。

馬場様は、幼稚園の園長先生もなさっているとのことで、大変親近感を持ちました。今後、収録してきたアフリカ太鼓のリズムをもとにいろいろワークショップなどを開くことも考えています。

私がアフリカに魅了されてやまない大きな理由に、彼らのもつ音楽。リズム。歌。踊り。があり、その全てをとっても、言葉では表現できないすばらしい力があります。

アフリカ太鼓には不思議な力があります。アフリカの踊りとは魂の叫びであり、生きていることを体全体で表現する手段です。アフリカの太鼓は、病気を治すために用いているほど、癒しの効果もあり、ひとつひとつの木をくりぬいて、山羊や牛の皮をはってつくられた生命あるものから生まれた楽器だけに、生命溢れる音が人の心や体を動かします。

太鼓の音は彼らにとって「言葉」であり、赤ちゃんの鼓動でもあるのです。そんな生命の源である彼らのもつすばらしい文化を、小さな子どもから、老人の皆様まで、幅広い世代に向けて日本にて自分の経験をもとに、伝えていければと考えています。 == 以下省略 == 大町 佳代

編集後記 プリテン委員長 山本 常雄

16年前の阪神淡路大震災は未曾有の災害でありましたが、今回の東北関東大震災はそれを遥かに超える未曾有の災害で、本当にどのように対応して良いのか、茫然自失状態です。

亡くなられた方々へ衷心より哀悼の意を表しますとともに被災されました多くの方々に心よりお見舞い申し上げます。

16年前私たちは正にその真ん中にいて、必死に対応してきた訳ですから、時間と空間を超えて被災者に寄り添えないか。いま必要なことは何なのか、もっともっと話し合い、祈りの中から素早い行動が求められているのではないかと思います。ひとごととせず、私たちの問題としてもっともっと真剣に取り組んで行きたいものです。